

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2018年4月号)

No.9

2018/03/30

りそなホールディングス 市場企画部



○今月の相場見通し (サマリー)

※各マーケットコメントは3月29日(水) 9:00現在

		3月28日現在 (矢印は2月末比)	4月の予想	
為替相場	ドル・円 (円)	→ 106.85	上昇 ↗	100.00 ~ 110.00
	ユーロ・円 (円)	↗ 131.49	横ばい ⇒	127.00 ~ 135.00
株式相場	日経平均 (円)	↘ 21,031	上昇 ↗	20,000 ~ 23,500
	NYダウ (ドル)	↘ 23,848	上昇 ↗	23,000 ~ 26,000
長期金利	日本 (%)	→ 0.03	横ばい ⇒	0.00 ~ 0.10
	米国 (%)	↘ 2.78	上昇 ↗	2.65 ~ 3.00

○今月の注目ポイント

米保護貿易の行方		
テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	○	<p>【米国賃金・物価動向】2月雇用統計では、1月に寒波の影響で上振れた賃金の伸びが鈍化し、2月CPIは予想通りの結果となった。3月の両統計の上振れはFRBの利上げペース加速に繋がり、株式市場にとってリスク要因。</p> <p>【米国景気】2月小売売上高の下振れなどを背景に、1-3月期GDP(4/27公表)は伸びが幾分鈍化する可能性がある。しかし、減税効果が徐々に顕現する見込みであり、米国経済を押し上げるだろう。</p>
金融政策	△	<p>【ECB金融政策】10月以降の量的緩和縮小に関する議論が浮上する可能性はあるが、ユーロ高への警戒感、足もとのインフレ率鈍化を受け、利上げやフォワードガイダンス(金融政策の方針)変更論議は先送りされよう。</p>
政治	◎	<p>【米中貿易】米国による対中関税政策を受けた中国の反応に焦点が当たる。ムニューシン米財務長官と劉副首相が電話会談を行うなど、水面下で全面衝突回避に向けた動きがみられる。また李克強首相は中国経済の開放を推進する方針を示した。相互の経済にとって悪影響が大きいため、交渉を通じ貿易戦争が回避される展開がメインシナリオ。</p> <p>【地政学リスク】5月までに開催見通しである米朝首脳会談に向けた動きに着目。北朝鮮の金正恩氏は訪中した際に非核化に前向きな姿勢を示した。一方、トランプ米大統領は対外強硬派を相次ぎ政権ポストに据えたが、強硬派人事は大統領による威嚇に過ぎず、結局、非核化に向けた協議継続など現実的な結果となる見通し。会談決裂や先制攻撃など最悪のシナリオは回避されるだろう。</p>

今月の見通し

為替	<p>【ドル円】ドル円は徐々に戻りを試す。米国の保護貿易政策を巡る米中交渉の動向が焦点。貿易戦争といった事態は互いにメリットなく、妥協策を探るのがメインシナリオ。リスク回避の姿勢が和らぐ中、年初からのドル売りポジションの巻き戻しもあり、緩やかに戻りを試す展開を見込む。</p> <p>【ユーロ】ユーロはマクロ・需給面でじり安。これまでのユーロ高や米保護貿易への警戒からユーロ圏の景況感が鈍化傾向。年初からのドル売りポジションの巻き戻しも想定され、ユーロはマクロ・需給面でじり安を見込む。</p>
株式	<p>【日本株】米中貿易戦争や日本政治への懸念後退、ドル円反発を背景に上昇。内閣支持率が低下しているものの、金融・経済政策が否定された訳ではなく、文書書き換え問題が沈静化するにつれ、日本政治への懸念は徐々に和らぐ見込み。</p> <p>【米国株】貿易戦争への懸念が後退するなか値を上げる。また減税効果が徐々に実体経済へ波及すると考えられ、堅調なファンダメンタルズも株価に追い風となろう。</p>
長期金利	<p>【円金利】日本国債は引き続き良好な需給を背景に横ばい圏での推移を見込む。黒田日銀総裁が2期目を迎えるが、円高リスクもあり、出口論は封印されるとみる。10年金利0%の水準では、日銀による国債買入オペ減額も意識され、利益確定売りの動きも出やすい。方向感全般に出にくいであろう。</p> <p>【米金利】米国債は金利上昇を見込む。足もとの金利低下は、米国債売りのポジションの巻き戻しが主要因。FOMCでFRBは景気や物価判断を明確に上方修正させており、米国金利は良好なマクロ環境に合わせて、緩やかな上昇を予想。</p>

○今月の重要日程

月中	米	半期為替報告書	
2日(月)	日	日銀短観(3月調査)	18日(水) 日米 日米首脳会談(未定)
2日(月)	米	3月ISM(製造業)	20日(金) 日 3月CPI
4日(水)	欧	3月CPI	26日(木) 欧 ECB理事会
6日(金)	米	3月雇用統計	27日(金) 日 日銀金融政策決定会合
11日(水)	米	FOMC議事録(3/20、21開催分)	27日(金) 米 1-3月期GDP
			30日(月) 中 4月PMI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

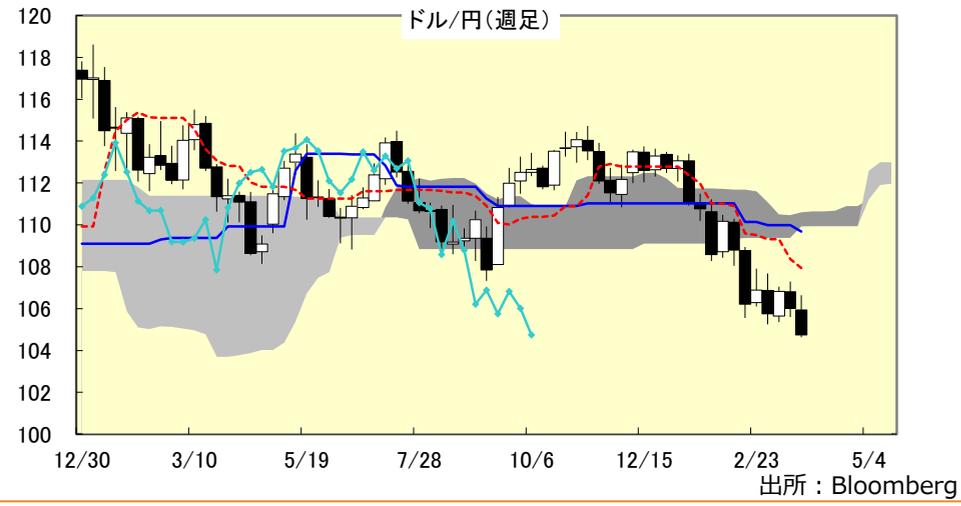
(2018年4月号)

2018/03/30



○今月の相場見通し① 為替

ドル 円



米ドル・円 ドル・円は上昇 **100.00 - 110.00円**

ドル円は徐々に戻りを試す
 今年に入り、ドル円は一方向に下落しているが、背景としては、需給面で米国の財政悪化を背景とした投機筋による米国債売り・ドル売りや、国内投資家の米国債売りがあったとみられる。既に投機筋のドル売りや米国債売りのポジションが高水準に積み上がっているなか、今後巻き戻しの動きからドルの買戻しは出やすい。また、3月に入り、米国の保護貿易に対する懸念が浮上しており、これに伴うリスク回避の動きも円高の背景となっている。現状、米国は中国に対し、知的財産権侵害への制裁措置を検討中である。最終的な決着には依然時間がかかるとみられ、今後中国との交渉動向に注目が集まる。制裁措置合戦となる一種の貿易戦争は互いにメリットがなく、妥協策を探るとするのがメインシナリオ。需給環境が改善するなか、米中交渉の進展により、リスク回避姿勢が薄らぎ、新年度のドル円は緩やかに回復すると予想する。

ユ - ロ



ユーロドル ユーロドルは下落 **1.19 - 1.26ドル**
 ユーロ円 ユーロ円は横ばい **127.00 - 135.00円**

ユーロはマクロ・需給面でじり安
 23日にECB理事会が開催される。前回のECB理事会では今後の量的緩和拡大を示唆するフォワードガイダンスが削除された。10月以降、年内は減額して継続されるというのがコンセンサス。但し、発表は6月以降の公算が高い。利上げをめぐる議論は先送りされよう。マクロ面でもこのところ発表されている景況感指数が、弱含んでおり、ユーロ相場には重石となる見込み。保護貿易の議論の落ち着きに伴って、需給面では、年初から一段と積みあがった投機筋のユーロ買い、ドル売りの動きは一旦は解消の動きが出てくるタイミングであろう。ユーロは、マクロ面、需給面で徐々に下値を切り下げる動きを想定。ユーロ円はドル円に下支えされるものの上値の重い展開を想定。

◎注意事項
 本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、本資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

2

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2018年4月号)

2018/03/30



○今月の相場見通し② 株式、長期金利

株式見通し



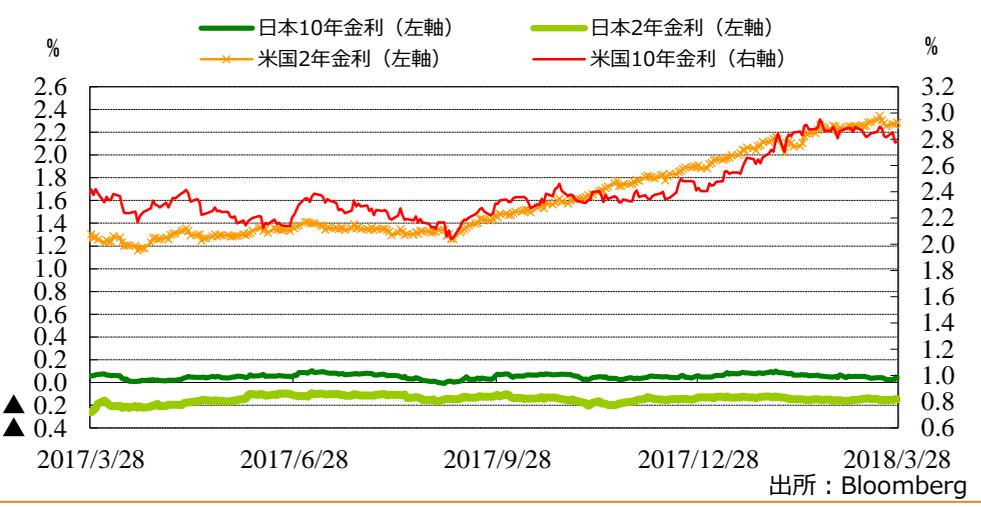
日経平均 日経平均は上昇 **20,000 - 23,500円**

米中貿易戦争への懸念や日本政治への懸念後退から上昇を予想。内閣支持率が低下しているものの、金融・経済政策が否定された訳ではなく、財務省文書書き換え問題が沈静化するにつれ、日本政治への懸念も徐々に和らぐ見込み。また中朝会談を受け、北朝鮮リスクの後退が意識されやすいことも好材料。年初から進行した円高の動きが一服し、ドル円の反発も想定されることも株高の支えとなろう。

NYダウ ダウは上昇 **23,000 - 26,000ドル**

米中貿易戦争への懸念が後退するなか値を上げる展開を予想。政治面では、米中貿易問題に関して、交渉を通じ報復関税の応酬など貿易戦争は回避される見通し。経済面では、減税効果が徐々に実体経済へ波及すると考えられ、堅調なファンダメンタルズが株価に追い風となろう。

長期金利見通し



日本国債10年 金利は横ばい **0.00 - 0.10%**

日本国債は引き続き良好な需給を背景に横ばい圏での推移を見込む。黒田日銀総裁が2期目を迎えるが、出口政策への議論は円高につながる可能性が高く、当面現状維持とのスタンスを継続するであろう。円高リスクもあり、出口論は封印されるとみる。一方で、10年金利0%の水準では、日銀による買い入れオペの減額も意識され、利益確定売りの動きも出やすい。方向感全般に出にくいであろう。

米国債10年 金利は上昇 **2.65 - 3.00%**

米国債は金利は上昇を見込む。足もとの金利低下は年初より積みあがった、米国債売りのポジションの巻き戻しが主要因であろう。FOMCでFRBは景気や物価判断を明確に上方修正させており、今後の利上げスタンスは明確。米国債の買戻しが一巡すれば、米国金利は良好なマクロ環境に合わせて、緩やかな上昇を予想。

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

3

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2018年4月号)

2018/03/30



○マーケットカレンダー

【前半】

	日本	米国	その他
4/2(月)	★1-3月期日銀短観	2月建設支出 3月ISM製造業景況感指数	
4/3(火)	3月マネタリーベース		(豪)準備銀行理事会
4/4(水)		3月ADP民間雇用調査	(EU)2月失業率 (豪)2月小売売上高 ★(EU)3月HICP
4/5(木)		2月貿易収支	(EU)2月小売売上高 (豪)2月貿易収支 ★(独)2月製造業受注
4/6(金)	2月家計調査 2月景気動向指数 2月毎月勤労統計	★3月雇用統計 2月消費者信用残高	★(独)2月鉱工業生産
4/9(月)	★3月景気ウォッチャー調査 2月国際収支 3月消費動向調査		★(独)2月貿易収支
4/10(火)			
4/11(水)	★2月機械受注 3月貸出・預金動向	3月財政収支	(英)2月鉱工業生産・製造業生産
4/12(木)	3月マネーストック	3月輸入物価指数	(EU)2月鉱工業生産 ★(中)3月貿易統計
4/13(金)			

【後半】

	日本	米国	その他
4/16(月)		★3月小売売上高 2月企業在庫 2月対米証券投資 4月NY連銀製造業景況指数	
4/17(火)	2月稼働率	★3月鉱工業生産 ★3月住宅着工	(英)3月失業率 (中)3月固定資産投資 ★(中)1-3月期四半期GDP ★(中)3月鉱工業生産 ★(中)3月小売売上高
4/18(水)	★3月貿易統計		
4/19(木)		3月景気先行指数 4月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	(豪)3月失業率
4/20(金)	★3月CPI 2月第3次産業活動指数		(EU)4月消費者信頼感指数 (独)3月PPI
4/23(月)		★3月中古住宅販売件数 3月シカゴ連銀全米活動指数	
4/24(火)		★2月S&PコアロジックCS住宅価格指数 ★3月新築住宅販売 4月リッチモンド連銀製造業景況指数	★(独)4月IFO景況指数
4/25(水)			
4/26(木)	★日銀金融政策決定会合(-27日)		(英)BOE金融政策委員会 ★(EU)ECB定例理事会 ★(独)3月小売売上高
4/27(金)	★3月鉱工業生産 ★日銀展望レポート 3月雇用統計 3月住宅着工件数 3月商業販売統計	★1-3月期GDP速報値	
4/30(月)		3月個人所得・消費支出 3月中古住宅販売成約指数 4月シカゴ地区製造業PMI	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー

(2018年4月号)

2018/03/30



○市場動向

		17年3月末	17年9月末	17年12月末	18年2月末	3/28(水)			17年3月末	17年9月末	17年12月末	18年2月末	3/28(水)		
外国為替	東京	ドル・円(仲値)	112.18	112.74	113.06	107.32	105.51	国内金利	無担保コール	オーバーナイト物	-0.060	-0.063	-0.062	-0.053	-0.066
		ユーロ・円(仲値)	119.81	132.81	135.05	131.20	130.94		日本円TIBOR	3ヵ月	0.05727	0.05727	0.06727	0.06909	0.06909
		豪ドル・円(仲値)	85.82	88.56	88.19	83.60	81.19			6ヵ月	0.10636	0.10636	0.11636	0.12636	0.12636
		NZドル・円(仲値)	78.47	81.45	80.27	77.65	76.71		利付2年国債	新発債	-0.195	-0.224	-0.119	-0.170	-0.115
		ドル・円(15:30時点)	111.79	112.69	112.70	107.09	105.69		利付5年国債	新発債	-0.114	-0.125	-0.070	-0.145	-0.070
		ユーロ・円(15:30時点)	119.43	132.75	134.69	130.91	130.96		利付10年国債	新発債	0.041	0.065	0.084	0.000	0.065
		ユーロ・ドル(15:30時点)	1.0684	1.1780	1.1950	1.2225	1.2395		利付20年国債	新発債	0.570	0.630	0.590	0.535	0.595
		ドル円直先スワップ(3ヵ月、銭/ドル)	d 41.3	d 53.9	d 54.2	d 68.2	d 62.2		円/円スワップ	2年	0.05065	0.03549	0.04517	0.04820	0.04525
	NY	ドル・円	111.39	112.51	112.69	106.68	106.85	5年		0.10307	0.10999	0.10613	0.11065	0.09751	
		ユーロ・ドル	1.0652	1.1814	1.2005	1.2194	1.2308	10年		0.26436	0.26370	0.27050	0.26879	0.24623	
英ポンド・ドル		1.2550	1.3398	1.3513	1.3760	1.4077	20年	0.67917		0.65865	0.66423	0.63265	0.60376		
スイスフラン・ドル		1.0026	0.9683	0.9743	0.9446	0.9567	海外金利	米金利	FFレート	0.81	1.05	1.31	1.30	1.16	
株式	東京	日経平均(225種/円)	18,909.26	20,356.28	22,764.94	22,068.24		21,031.31	TB(3ヵ月)	0.752	1.041	1.376	1.652	1.718	
		東証株価指数(TOPIX)	1,512.60	1,674.75	1,817.56	1,768.24		1,699.56	T-NOTE(10年債)	2.387	2.334	2.405	2.861	2.781	
		日経ジャスダック指数	3,045.84	3,593.10	3,950.46	4,149.68		3,928.51	LIBOR	日本円(3ヵ月)	0.02593	-0.05121	-0.02417	-0.06017	-0.02983
		東証マザーズ指数	1,070.89	1,093.10	1,231.99	1,239.13		1,172.13		米ドル(3ヵ月)	1.14956	1.33389	1.69428	2.01719	2.30800
		東証1部出来高(百万株)	2,222.23	1,731.36	889.15	1,542.29		1,412.31		ユーロ(3ヵ月)	-0.35786	-0.37943	-0.38471	-0.37929	-0.37429
	NYダウ(ドル)	20,663.22	22,405.09	24,719.22	25,029.20	23,848.42	英ポンド(3ヵ月)	0.33744		0.33500	0.52106	0.58163	0.69188		
	海外	ナスダック総合指数	5,911.74	6,495.96	6,903.39	7,273.01	6,949.23	スイスフラン(3ヵ月)	-0.72960	-0.72600	-0.74620	-0.74460	-0.73620		
		中国上海総合指数	3,222.51	3,348.94	3,307.17	3,259.41	3,122.29	豪ドル(3ヵ月)	1.79000	1.71000	1.77890	1.78870	2.02000		
		SENSEX(インド)	29,620.50	31,283.72	34,056.83	34,184.04	32,968.68	NZドル(3ヵ月)	2.00500	1.96000	1.88000	1.92000	1.95000		
		ブラジルボブスバ指数	60,227.29	74,293.51	-	85,353.59	83,874.13	(注) 月末が休日の場合は前営業日データ							
MICEX指数(ロシアドル建)		1,995.90	2,077.19	2,109.74	2,296.80	-									
商品	金(NY先物、期近)(ドル)	1,247.30	1,281.50	1,309.30	1,317.90	1,324.20									
	原油(WTI先物、期近)(ドル)	50.60	51.67	60.42	61.64	64.38									
	CRB先物指数	185.88	183.09	193.86	193.95	194.31									

(注) 月末が休日の場合は前営業日データ

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー (2018年4月号)

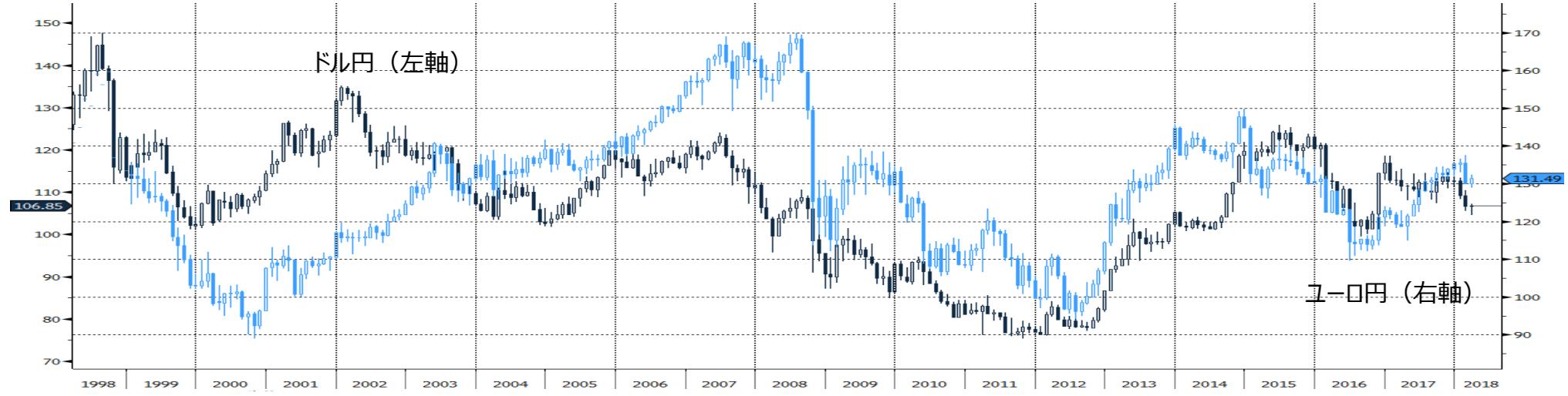
2018/03/30



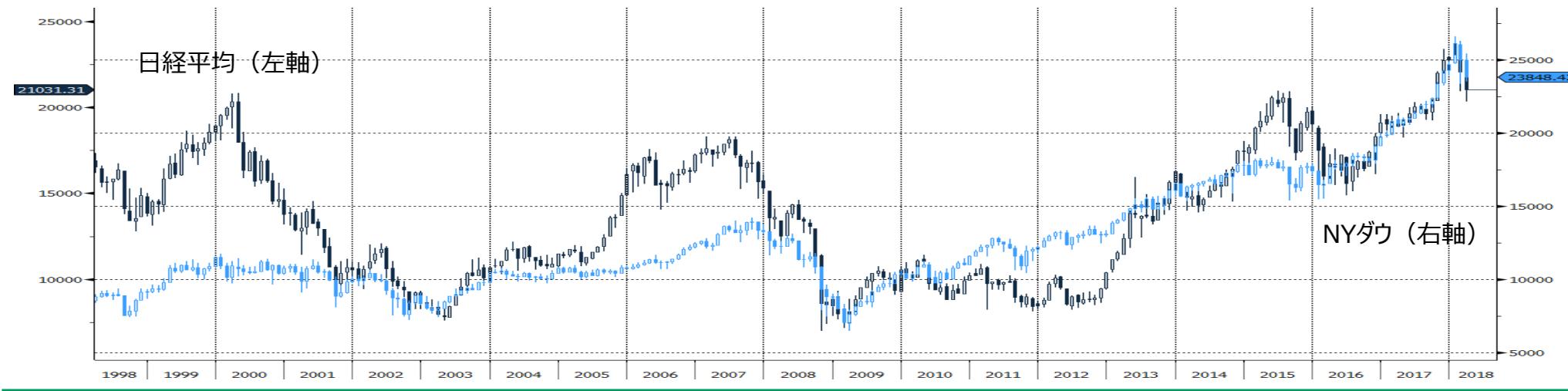
○チャート集① 過去20年間の相場推移 (外国為替、株式)

出所：Bloomberg

ドル円とユーロ円



日経平均とNYダウ



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー (2018年4月号)

2018/03/30



○チャート集② 過去20年間の相場推移 (長期金利、商品)

出所: Bloomberg

米国10年金利と日本10年金利



原油 (WTI原油先物) と 金 (NY先物)



◎注意事項
 本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンスリー (2018年4月号)

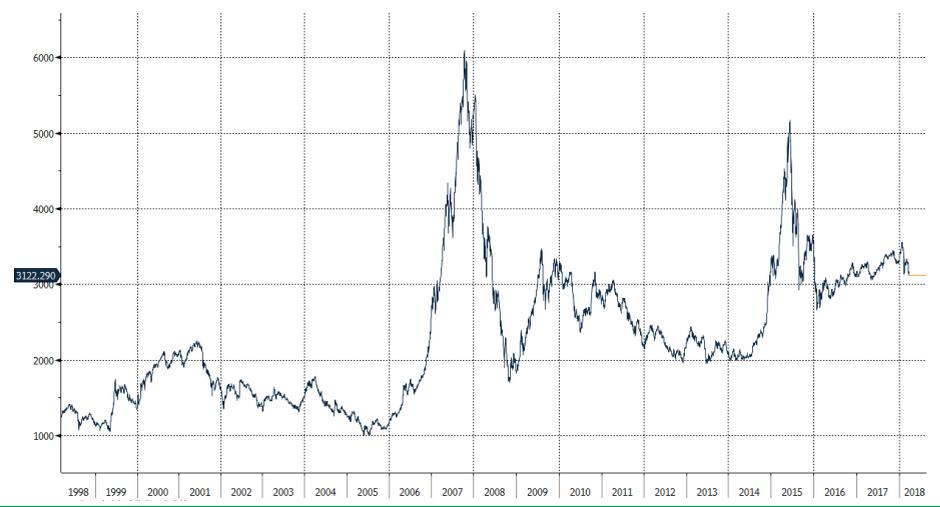
2018/03/30



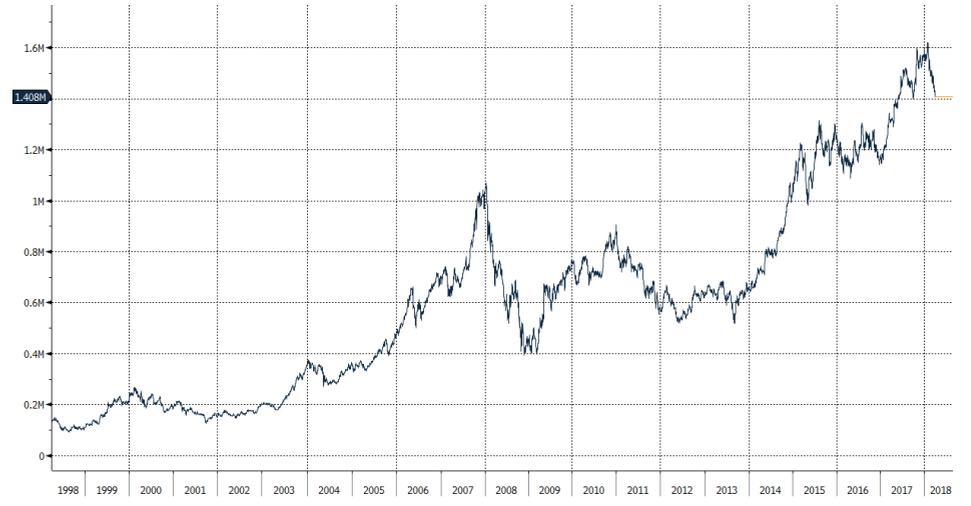
○チャート集③ 過去20年間の相場推移 (新興国株式)

出所 : Bloomberg

中国上海総合指数



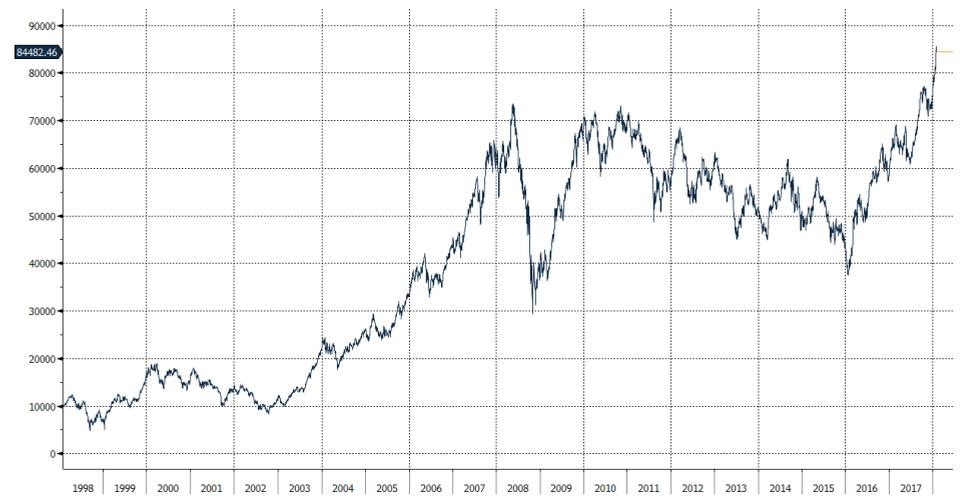
インドSENSEX指数



ロシアMICEX指数



ブラジルBOVESPA指数



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンズリー

(2018年4月号)

2018/03/30



◎景気の現状と見通し① 日本

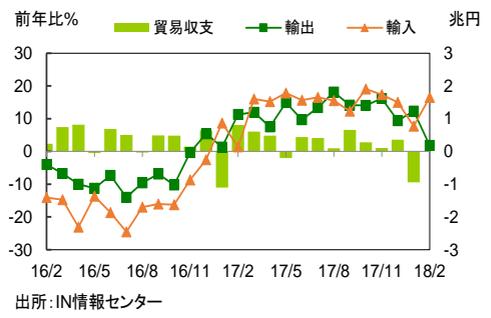
景気の現状

10-12月期GDPが2次速報で上方修正

日本経済は、10-12月期GDPが2次速報で上方修正、機械受注は前月の大幅減から持ち直し

- 1-1 10-12月期GDP 2次速報、前期比+0.4%（7-9月期+0.6%）と1次速報（+0.1%）から上方修正
設備投資（+0.7%→+1.0%）、企業設備（+0.7%→+1.0%）、在庫（▲0.1%→+0.1%）の上方修正が寄与
- 1-2 鉱工業生産、生産は緩やかな持ち直しの動き
1月鉱工業生産は、前月比▲6.6%と大幅低下。経済産業省の製造業予測調査によると、2月は+9.0%、3月は▲2.7%の見通しで、1-3月期は8四半期ぶりのマイナスとなる可能性。
- 1-3 2ヶ月ぶりに貿易黒字
2月貿易収支は34億円の黒字、2ヶ月ぶりの黒字。輸出は自動車の増加が目立った一方、輸入は衣類・同付属品、液化天然ガスなどが増加した。対米貿易収支は6,309億円と13ヶ月連続の黒字。

貿易統計



機械受注

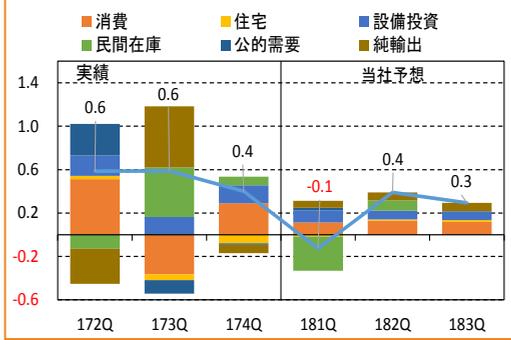


- 1-4 個人消費、実質ベースで2ヶ月ぶりのプラス
1月家計調査によると、1世帯当たり消費支出は、前年比+2.0%と2ヵ月ぶりのプラス（12月▲0.1%）。
- 1-5 機械受注、製造業、非製造業（船舶・電力を除く）共に増加
1月の機械受注によると、船舶・電力を除く民間からの受注額は、前月比+8.2%の8,723億円と前月から反発し大幅増。製造業、非製造業、外需共に増加。
- 1-6 消費者物価指数、コアCPIは前年比+1.0%と14か月連続のプラス
2月消費者物価指数は総合CPIは前年比+1.5%（1月+1.4%）、生鮮食品を除くコアCPIが前年比+1.0%（+0.9%）。コアCPIの伸び拡大はガソリン、宿泊料、携帯電話機が主な要因。これは消費増税のあった2014年度を除けば2014年3月以来の水準。

GDP予想

GDP予想 - 2017年度+1.8%、2018年度+1.2%、2019年度+1.0%を想定

日本の2017年度の実質GDP成長率は前年度比+1.8%を想定。設備投資の強さを受け前回の+1.6%から上方修正。2018年度は+1.2%を想定(据え置き)。2019年度は+1.0%に上方修正(前回+0.9%)。消費増税前の駆け込み需要から住宅投資を若干上方修正。2018年度、2019年度は米中引き締めの影響から2017年度比鈍化を見込む。ただ、米国税制改革などを背景に緩やかな減速に留まる見通し。



%、内訳は寄与度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
	実績	予測	予測	予測
実質GDP	1.1	1.8	1.2	1.0
個人消費	0.1	0.6	0.5	0.5
住宅投資	0.2	0.0	-0.0	0.0
設備投資	0.2	0.6	0.4	0.4
在庫投資	-0.3	0.0	0.0	0.0
公的需要	0.1	0.2	-0.0	0.0
外需	0.7	0.4	0.3	0.1

◎注意事項をよくお読み下さい

りそなマーケットフラッシュマンズリー

(2018年4月号)

2018/03/30



○景気の現状と見通し② 米国・欧州・中国

米国

米国経済、賃金の伸びが拡大し、インフレ期待が上昇

米国経済は、雇用統計にて賃金の伸びが鈍化したほか、消費者物価指数が予想と一致したことで市場の過度なインフレ懸念は後退

10-12月期GDP(確報値)+2.9%に上方修正(改定値+2.5%、速報値+2.6%)

個人消費+4.0%(改定値+3.8%)、設備投資+6.8%(同+6.6%)などが上方修正に寄与

2月雇用統計、市場予想を上回る

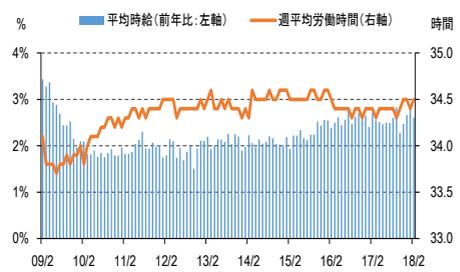
2月の非農業部門雇用者数、前月比+31.3万人と市場予想(+20.5万人)を上回った。失業率は4.1%と前月から横這い。賃金は前年比+2.6%と一部悪天候の影響で上振れた前月(+2.8%)から伸びは縮小。

2月小売売上高は前月比▲0.1%と市場予想(+0.3%)を下回る。全13業種中7業種で売上が減少。

2月消費者物価指数、前年比+2.2%

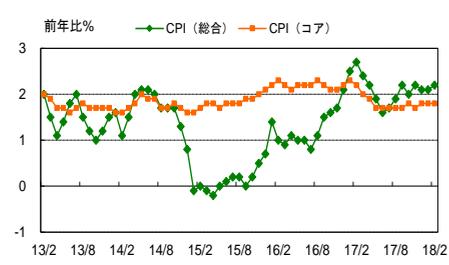
総合は前年比+2.2%(予想+2.2%、1月+2.1%)、コアは前年比+1.8%(予想+1.8%、1月+1.8%)といずれも予想と一致。

雇用統計(平均時給)



出所: Bloomberg

消費者物価指数



出所: Haver、りそなHD

欧州

ドイツ経済、景況感指数は過去最高値から反落

ドイツ経済指標は前月からは鈍化。

1月鉱工業生産は▲0.1%、小売売上高も▲0.7%で前月から減少。貿易面では、黒字幅が縮小した。

3月景況感指数は、Ifo114.7(2月115.4)と低下、ZEW90.7(同92.3)は上昇が一服。

ユーロ圏の指標では、物価面では2月消費者物価指数(CPI)が前年比+1.2%(1月+1.3%)と伸びが鈍化。

中国

2018年成長率目標は+6.5%前後と前年から据え置き

3/5から開催された全人代(全国人民代表大会)で2018年成長率目標が前年比+6.5%前後と2017年目標を据え置き。他方、財政赤字目標は対GDP比2.6%と引き下げ(2017年目標:3.0%)。

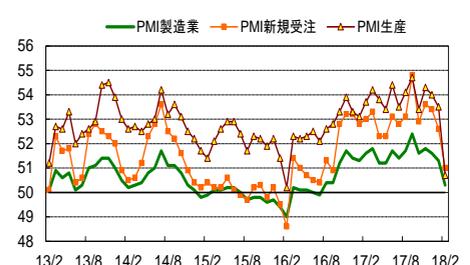
1-2月鉱工業生産は前年比+7.2%(12月+6.2%)、小売売上高は+9.7%(12月+10.2%)、固定資産投資は+7.9%(12月+7.2%)。2月貿易収支は337億ドル(1月206億ドル)。2月製造業PMIは50.3(1月51.3) 2月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.9%(1月+1.5%)。

実質GDP成長率



出所: Bloomberg、りそなHD

PMI



出所: Bloomberg、りそなHD

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。